

保湿液を使用する場合

-使用量は「極微量」。おすすめはワセリン軟膏-

海の森化粧品の使い始めや季節の変わり目、しっかりメイクをしている方など、海の森化粧品のみで、どうしてもつっぱり、ザラザラ、粉が吹くなどが気になるときは、一時的に保湿液を使用します。その場合、「極微量」の「ワセリン軟膏」の使用をおすすめします。

●おすすめは「ワセリン」軟膏

乳液・クリーム・美容液・ゲルなどの大半の保湿液には、合成界面活性剤やアルコールが配合されています。皮膚バリアを壊し、肌力低下に拍車がかかるため、例え補助的・一時的であっても、また使用量を極微量に抑えたとしても、これらの使用はおすすめしません。また、アルガンオイル・オリーブオイルなどの植物オイルや馬油などの100%オイルには、合成界面活性剤やアルコールは配合されていませんが、紫外線に当たると酸化や皮膚の黒ずみやシミの問題もあるため、日常生活程度であれば酸化しにくいといわれるワセリンの使用をおすすめします。ただし、ワセリンであっても、使用量が多すぎると、肌力低下につながるため、使用量を抑える(極微量にする)ことが大切です。ワセリンについての詳細は、uminomori.com「保湿液を使用する場合」をご参照ください。

●使用量の目安「極微量」。指で薄く伸ばしてから塗布

一般的に1回の保湿液の使用量の目安は、100円玉大や1円玉大、あずき粒程度がとされています。しかし、1日の皮脂分泌量をもっとも多いとされる20-30代の肌(全身:1日約1~2g。顔:約0.03~0.04g)から見ても、上記の量でも多すぎるといえます。保湿液を使用する場合は、皮脂量程度、極微量に抑えることが何より大切と考えます。肌力への負担が最も低いとされるワセリン軟膏であっても、使用量が多すぎると肌力低下につながり、肌トラブルは一向に改善されません。厚塗りをせず・乾燥が気になる部位に使用します。すり込むのではなく、指で薄く伸ばしてから、皮膚表面にのせるような感覚でやさしく塗布します。なお、赤ニキビには、ワセリン軟膏を使用することはできません。

※ワセリンが苦手な方：お手持ちの乳液・クリームなどの保湿液を海森水で希釈して使用します



1. 手のひらに通常の使用量の半分の保湿液をのせ、そこへ海森水(髭水)を1~2プッシュ程度スプレーします。次に、両手でこすり合わせるようにし、海森水と保湿液を馴染ませてください。
2. 乾燥する顔の部位に手を押し付けるようにして、やさしくつけます。
3. 乾燥状態に合わせて、保湿液の使用量を調整してください。

保湿液の使用量を最小限に抑えることができます。

※全ての方に同じ効果を保証するものではありません。肌に合わない場合は使用を中止してください。